
第1回 TOEIC ゼミ

ゼミ担当者 : 及川 雅隆, 上村 祐子, 降幡 建太郎
指導院生 : 近藤 健史, 吉田 昌太
開催日 : 2002 年 5 月 17 日

ゼミ内容: 本ゼミでは、まず TOEIC テストの概要とその特徴の説明をし、次に実際に模擬試験を解いてもらうことにより、TOEIC テストに対する理解を深めてもらうことを目指します。

1 TOEIC の概要

TOEIC は Test of English for International Communication の略称で、国際コミュニケーション英語能力テストのことである。英語によるコミュニケーション能力を正確に測定するための共通尺度 = モノサシとして定期的に行われているテストシステムである。TOEIC は英語によるコミュニケーション能力のレベルを正確に知りたいすべての人が利用できる信頼性の高いテストだ。TOEIC はテスト開発に携わる機関として世界最大の規模とノウハウを持つアメリカの ETS (Educational Testing Service) が開発した。これまでに世界の約 50 カ国で実施され、2000 年の受験者数は約 200 万人に上る。日本国内では昨年 1 年間の受験者数は 128 万人を超え、これまでの累計では 898 万人以上に及ぶ。また個人での受験のほか 3,500 以上の企業・団体・学校で採用され活用されている。1996 年より TOEIC の管理団体は ETS の子会社である Chauncey Group International に移っている。また日本における TOEIC の実施・運営には (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会が当たっている。

2 TOEIC の特長

2.1 世界共通の国際コミュニケーション英語能力テスト

TOEIC は、世界約 50 カ国で実施されている、きわめて信頼性の高い世界共通の国際コミュニケーション英語能力テストである。日本語を介さず英語だけで行われる他に類のない英語能力テストである。

2.2 個人の能力レベルに合わせた目標点が設定可能

受験級のような区分はなく、受験者全員が同じ試験問題に解答する。結果は合否ではなく、10 点から 990 点までのスコアで出てくるので、初級英語学習者から高度に英語を使える人まで、幅広い受験者が同じ試験問題で、英語によるコミュニケーション能力を測ることができる。従って、各受験者が自分の目標点 (合格点) を自由に設定することができ、目安と励みにつながる。

2.3 英語によるコミュニケーション能力が公平に評価される

その国独自の文化的背景や言い方を知らなければ解答できないような問題は排除されている。従って、英語によるコミュニケーション能力だけが、国籍・人種などとは無関係に、公平に評価される。

2.4 英語によるコミュニケーション能力が総合的に評価可能

スピーキング能力とリスニング能力、ライティング能力とリーディング能力には密接な関係がある。TOEIC はリスニング能力とリーディング能力を測定するだけでスピーキング能力やライティング能力までもが総合的に評価できるように設計されている。

2.5 毎回のテストによって評価基準が変動することがない

TOEIC では、評価基準を一定にするために統計・分析による equating (スコアの同一化) という処理が行われている。従って、英語能力に変化がないかぎり何回受験しても得点に変動がないよう標準化されたスケール上のスコアで評価が与えられる。これにより時系列的な能力進捗の測定が可能となっている。

3 TOEIC 定期公開テスト

TOEIC は年 7 回 (1 月, 3 月, 5 月, 7 月, 9 月, 10 月, 11 月) 全国 51 都市で実施されている (3 月, 7 月, 10 月, 11 月は受験地限定。) TOEIC 公開テストは個人での受験のほか、企業・団体・学校等向の団体申込によるご利用方法もあり、IP テストと呼ばれる。我が三木研究室では後者の方法を利用している。

4 テストの概要

TOEICは2時間(120分間)でSection IのListening 100問とSection IIのReading100問の合計200問に答える一斉客観テストである。

出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙にマークシート(正しいと思われる解答番号を選択して黒く塗りつぶす)方式で記入する。

4.1 Section IのListeningテスト(100問, 45分間)

4つのPartで構成され、テープから流れる会話やナレーションを聞いて設問に答える形式のテストである。

4.2 Section IIのReadingテスト(100問, 75分間)

3つのPartで構成されていて、印刷されている問題を選んで設問に答える形式のテストである。

5 PROFICIENCY SCALE (TOEICスコアとコミュニケーション能力との相関表)

レベル	TOEICスコア	評価(ガイドライン)
A	860-	Non-Nativeとして十分なコミュニケーションができる。自己の経験の範囲では専門外の分野の話題に対しても十分な理解とふさわしい表現ができる。Native Speakerの域には一歩隔たりがあるとは言え、語彙、文法、構文のいずれおも正確に把握し、流暢に駆使する力を持っている。
B	730-860	どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。通常会話は完全に理解でき、応答もはやい。話題が特定分野にわたっても、対応できる力を持っている。業務上も大きな支障は無い。正確さ流暢さに個人差があり、文法、構文上の誤りが見受けられる場合もあるが、意思疎通を妨げる程ではない。
C	470-730	日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない。複雑な場面における的確な対応や意思疎通になると、巧拙の差が見られる。基本的な文法、構文は見についており、表現力の不足はあっても、とにかく自己の意見を伝える語彙を備えている。
D	230-470	通常会話で最低限のコミュニケーションができる。ゆっくり話してもらるか、繰り返し言い換えをしてもらえば、簡単な会話は理解できる。身近な話題であれば応答も可能である。語彙、文法、構文ともに不十分な所は多いが、相手がNon-Nativeに特別な配慮してくれる場合には、意思疎通をはかる事ができる。
E	-220	コミュニケーションができるまでに至っていない。単純な会話をゆっくり話してもらっても、部分的にしか理解できない。断片的に単語を並べる程度で、実質的な意思疎通の訳には立たない。

Fig. 1 PROFICIENCY SCALE (TOEICスコアとコミュニケーション能力との相関表)

Fig. 1 に TOEIC スコアとコミュニケーション能力との相関表¹を提示する。

6 テスト結果

- TOEIC では、テスト結果を合格・不合格で判定することはせず、スコアで英語能力を評価する。
- Listening スコアは最高点 495 点から最低点 5 点の間の配点。
- Reading スコアも同様に 495 点から 5 点の配点。
- Total スコアは Listening スコアと Reading スコアの合計で、最高点 990 点から最低点 10 点の間で表示される。スコアは 5 点単位で表示されている。

¹資料提供 TOEIC 運営委員会

7 問題の構成

7.1 Section I - Listening (45 分間) 100 問

7.1.1 Part I 写真描写問題 (One Picture) -20 問

問題用紙にある写真を見ながら，テープから流れる 4 つのセンテンスを聴き取り，写真を最も適切に表現しているセンテンスをひとつだけ選択する。

傾向 写真描写は大きく 3 つに分けられる。

- 情景（景色）：静止物の位置や配置の描写が主である。
- 動作（行動）：人物や動物の動きが中心に描写される。
- 混合問題：情景と動作の混合だが，静止物と人物や動物がどう関わっているかという点が聞かれる。

対策

- キーワードを探せ
- 観察力をつける。
- 作者の意図を研究する
- 聞き方のコツを知る。

7.1.2 Part II 応答問題 (Question-Response) -30 問

テープから流れる質問とそれに続く 3 つの応答を聴いて，正しい応答をひとつだけ選択する。

7.1.3 Part III 会話問題 (Short Conversations) -30 問

テープから流れる 2 人による短い会話を聴き，問題用紙にある設問を読んで，4 つの選択肢から正しい答をひとつだけ選択する。

傾向 2 人の会話が進められる形。どこでの話（場面）なのか（会話中の単語や語句から把握），どういう関係の人なのか（上司/部下，同僚，友人，先生/生徒，親子，夫婦など），何についての話なのか，を聞き取ることが大切である。また質問と選択肢からも話題を推測するように練習しよう。

対策

- 会話文から内容を把握する（傾向の研究）
- 場面に合った関連単語を知る
- 質問文から会話文を読む

7.1.4 Part IV 説明文問題 (Short Talks) -20 問

テープから流れる短いスピーチまたはアナウンスを聴き，問題用紙にある設問を読んで，4 つの選択肢から正しい答をひとつだけ選択する。ひとつの Short Talk に対して設問は 2 つまたは 3 つあり，その各々に解答する。

傾向 基本的には PART 3 に似ているが，会話体ではなく文章も少し長い。年代・曜日・時間・数字・人名・場所などはよく聞かれるが，問題の中心となっているのは何かをあらかじめ設問と選択肢で予測して聞こう。

対策

- スピードに慣れる
- 必要な情報を的確につかむ
- 質問文からリスニングポイントを絞る
- 事実に注意：必要な無い情報も入っている。

7.2 Section II - Reading (75 分間) 100 問

7.2.1 Part V 文法・語彙問題 (Incomplete Sentences) -40 問

短いセンテンスにある空欄に入るものとして最もよく当てはまるものを、4 つの選択肢から 1 つだけ選択する。

7.2.2 Part VI 誤文訂正問題 (Error Recognition) -20 問

4 カ所の語または語句に下線が引かれているセンテンスがあり、4 つの下線部の中から文法上の誤りのあるものを選択する。

傾向

- 文法的な知識を尋ねる問題 (知っておかねばならない文法知識と同時に品詞の識別 (特に動詞, 名詞, 形容詞, 副詞など) もよく出題される)
- 類語/イディオムの知識を尋ねる問題 (基本的なものが多岐にわたる)

対策

- TOEIC における基本的な文法項目攻略
- 特に大切な品詞群 (名詞/動詞/形容詞/副詞) の整理
- 基本的な単語 (類語) 力やイディオム力をつける。

7.2.3 Part VII 読解問題 (Reading Comprehension) -40 問

いろいろな資料が提示される。資料ごとにいくつかの設問があり、それぞれに最も適当な答えを選ぶ。

傾向 案内文, 広告, 料金表, 統計, グラフ, メモ, ビジネスレターなど実用的な様々なものが教材となる。読解問題はリーディングセクションのなかの 1 項目。

対策

- 頭読みを身に付ける。
- スキミング (走り読み: ポイントを絞り, ざっと全体を読む方法)
- スキャニング (探し読み)

8 全体としての TOEIC の対策

8.1 語彙

語彙は多い方がよい。しかし知らない語でもそれに引っかかってはいけない。知らない単語が出て来た場合、それにひっかかって、それがあたかも重要であるかのように感じられるが、大抵の場合は、それは重要ではない事の方が多い。

語彙が増えるとイディオムであるかそうでないかについて、直観が働くようになるので、単語はできるだけ知っている方がよい。語源を知っていると結構強い。ラテン語, ギリシャ語, ドイツ語を知れば、大体の単語は把握する事ができる。これらを把握するという事は、一般に接頭語, 接尾語と呼ばれているものがどういう意味を持つのかを知る事ができ、組み合わせで生成されている単語と言うものが理解できるので、指数関数的に語彙が増えることになる。

8.2 心構え

問題は、間違っても、一つの問題に引っかからない方がよい。リスニングの問題は引っかかってしまうと、それ以上の事ができないような心理状況になる。分からない問題は分からないので、すぐに次に興味を移せるようにする。

8.3 集中力

試験は、二時間あるので、精神的に余裕が無いと難しい。健康状態によっても結構点数は左右される。できるだけ受験する前日には十分な睡眠をとり、余裕をもって挑むことが望ましい。]